

看護リハビリ新潟保健医療専門学校

テーマ：「医療者として仕事の質を向上させるために大切な3つの視点」 & 「いつかきっと役に立つ3つのお話」

・講演で印象に残ったこと

[1 学年]

- ・自分の特技、自信を見つけるということ
- ・時間が無いのではなく、自分のやる気がないという言葉
- ・フィードバックしない方法
- ・君が代が恋文だったこと
- ・症例写真
- ・時間が無いのではなく自分のやる気がない
- ・地道に長く治療して行くことは大切だと思った
- ・自分の悩んでいた部分が解決したのにまだ満足しない方がいるということを知り驚いた。
- ・患者さんのために看護師、医師が出向いて前の経過を聞きにいられたこと
- ・どんな医者や看護師でも友達になってはけなく、いけなく、友達という感覚よりも信頼が大切だということがありました。
- ・患者さんと、医師の満足度が違うこと
- ・治療が終わっても患者によって満足感が違うことがわかった
- ・全ての看護師が名看護師にならなければならないということ
- ・患者さんの満足と看護師の満足度について
- ・患者さんを裏切らないという言葉です。
- ・患者さんの話を聞き満足度を高めることが大切だと思いました。
- ・症状が良くなっても患者さんによっては喜びの言葉がない時もある
- ・医者看護師患者それぞれがすべきことをきちんとすることが大切だとわかった
- ・常に自分で目標を高く持つことが大切なこと。
- ・患者さんからも学ぶことがある事
- ・3つの good がないとより良い医療が提供できない
- ・重症のアトピーの患者さんや頭の皮膚が凸凹で腐ってた患者さんの症例の写真と治療後の写真が印象的でした
- ・患者をどのような方法で満足させるのか。ということを試行錯誤しながら日々活動していることに感心しました
- ・友達関係と信頼関係は違うということ
- ・患者さんについての情報をしっかり聞いたり、いい看護師さん、いい患者さんなどたくさんの方が揃うことが大切だと思いました。

- ・医療従事者と患者さんで症状の回復状態の満足度が大きく違うことがあること。
- ・自信を持つことは不安をなくすこと
- ・症例や例えをわかりやすく提示してくれていてわかりやすかった。
- ・頭にうみがたまったり様々な患者さんがいたこと。
- ・責任感を持つ事が大切だと改めて思いました
- ・医療者と患者さんは一人一人治療効果満足度が違う
- ・アトピーの重症患者の肌を注射を打ち改善させていたことです。
- ・看護師として病院で働くときには誰もがプロフェッショナルでなければならないというところが印象に残りました。
- ・3つの good に気をつけてより良い医療を提供する
- ・患者と医療従事者どちらも良いと思う治療をする。
- ・実際の医療現場での経験について患者との関わりについてなど聞くことができ良かったです。また納得できる部分も沢山ありました。
- ・自信を持つためには不安を減らすことが大切。医療の現場で自信を持ちすぎることは良くない。
- ・そうありたいという気持ちを持ち続けながら、日々研鑽を積むことが大切だと学びました。
- ・患者から学ぶことを活かしていき自分の不安が残らない様な努力をしていく必要があること
- ・講演の先生でも不安になることはあるとお話ししていて、毎日毎日の勉強や訓練で成長していくこと。

[2 学年]

- ・患者から学ぶことがたくさんある。友人関係=信頼関係ではない
- ・感謝から学ぶことがたくさんあり、患者さんと関わることで学ぶことがたくさんある
- ・患者さんに納得してもらえように務めること
- ・時間がないのではなくやる気がない。
- ・夢は逃げないこと
- ・患者を裏切らない
- ・患者を裏切らない
- ・全員が名看護師であることが当たり前だということ
- ・亀とウサギの話
- ・患者さんの写真
- ・自信はないが自信をつけるために知識をつける
- ・亀とウサギの話
- ・君が代はラブソングなんだと思った。初めて知った。
- ・全員が名看護師である
- ・国家がラブソングだったことが印象に残りました
- ・情けは人の為ならず
- ・自信を持つ

- ・患者さんの否定せず意見を尊重する。信頼関係は友達など仲がいいことを言うのではなく、技術を認められたらできるものだと知った。
- ・医療従事者が前向きでも患者が前向きでなければ意味がないということ
- ・友達関係＝信頼関係ではない
- ・自信を持つことは大切だが、過信しすぎると失敗する
- ・自信を持つことは大切
- ・友達関係＝信頼関係ではなく、確かな技術を提供すること
- ・名看護師のくんだり
- ・患者さんだけ医師だけが頑張るのではなく、全体で協力して治療に取り組む
- ・医療者としての心持ち
- ・患者さんと心から向き合い、治ったからそれでいいのではなくその先のことも考えて発想を広げ援助を行う。医師、看護師、患者本人が1つの目標を共有して共に頑張ることが大切。
- ・情報には常に主観があるということ。病気は話さない。だから、無言の声に耳を傾ける必要がある。
- ・3つの視点から見て患者さんに適した看護をすること
- ・元々あった情報からではなく、対象の既往歴や身体からの情報を読み取り、援助や支援を行うことが印象に残った。
- ・患者さんに安心してもらうために看護師は名看護師でなくてはならないこと
- ・自信は不安を無くすこと準備は悲観的、実施は楽観的に。FOCUS
- ・患者さんを観察して聞こえない声を聞き取ることが大切という言葉が印象に残った。病気の兆候がしっかり見極めることができ、患者の苦しみを未然に防ぐことができるようになりたいです。
- ・good doctor、good nurse、good ペインシエントの3つの good が揃うことでどんな重症な疾患でも寛解維持をすることができることです。
- ・結果は、悪くてもこの看護師さんに援助してもらえて良かったと言ってもらえるようになる。
信頼関係＝友達関係では、ない。

[3 学年]

- ・仲良くなったとしても信頼されているわけではない事
- ・自信を持ってはいけない。もてるようにすること
- ・ピボット戦法
- ・友達のような関係ではなく、信頼してもらえるように努力すること。
- ・患者と医療者の満足感の差について
- ・友達＝信頼関係
- ・医療人に必要なこと
- ・友達関係＝信頼関係ではない
- ・自分たちが満足していても患者さんにとっては満足いくものでないかもしれない。客観的な情報だけではなく、主観的な情報などの色々な情報を見ていくことが必要だということが印象に残りました。

- ・頭の白いクレーターの原因が潰瘍性大腸炎であり治療法を変えると頭皮が改善されたこと
- ・医療の大切さ
- ・皮膚について
- ・ピボット戦略、常在戦場。就職の時期なので、志望動機を振り返る機会となりました。
- ・医療者と患者の満足度には差があること。時間がないは言い訳である。
- ・あまり良くない結果であっても、この人が看護してくれた結果なら仕方ないと患者が納得できる関係性を築くことが大事ということ。
- ・傾聴の重要性、医療者側の満足と患者さんの満足は違うということ
- ・患者さんとの関わりの中に慣れてはいけな。当たり前前が当たり前前が当たり前前。何か一つでも自分の強みとなるもの自信のある能力を身につける。

・講演を通じて、今後心がけようと思ったこと

[1 学年]

- ・当たり前の事を当たり前前ができるようにする
- ・患者を裏切らない、嘘をつかないこと。
- ・患者さんから多くのことを学んでそれをしっかりと生かし信頼される看護師になる
- ・自分が決めたことはやり遂げる
- ・自覚を持つ
- ・医療人として、患者の満足度が上がるようなケアをしていきたい
- ・医療従事者としての自覚を持つ
- ・患者の満足感と自分の満足感どちらも満たせるようにしたい。
- ・患者さんの気持ちを考えて行動すること
- ・笑顔で接しやかに信頼を持ってもらうようにするかを心がけたいです。
- ・自分のためにだけでなく、患者のために行動しようと思う
- ・お互い満足な結果になれるようにサポートできるように心がける
- ・目と耳を使って傾聴と観察を心がけること
- ・自信をもてる努力をしたいと思いました
- ・自信をつけるために努力をしていきたいです。自分から積極的に学び患者さんに信頼される看護師になりたいと思いました。
- ・患者さんを裏切らないことを心がけようと思いました。
- ・学習し続ける
- ・患者さんそれぞれに寄り添った看護をしたいと感じた
- ・やりとげるべきことは必ず行うこと。
- ・患者さん一人一人治療効果が違うから患者さんに合わせて行動する
- ・安心できる医療を提供できるように日々努力したい
- ・先生も言っていたように患者さんを裏切らないようにすること

- ・患者がなにを望んでいるのかを常に考えながら学んでいくこと
- ・精神面だけでなく、技術面でも信頼されるよう努める
- ・これからの授業で予習復習をしっかりとし、自分や患者さんから見ていい看護師だと思ってもらえるようにしたいです。
- ・自分の行動や言動にちゃんと根拠があるか考えること
- ・不安や疑問をなくす努力
- ・やるべきことはしっかり向き合ってやる。時間がないからやらないのではなく、やる！
- ・相手が会話している時に感じていることが、常に言葉で表現されるとは限らないので、表情やしぐさも見たいと思いました。
- ・内面を磨いて、自信を持つまでの過程を大切にしようと思いました
- ・患者さんから学べることを深く学ぶようにする
- ・患者さんの症状を把握して、細かいところまで観察できるようにしたいです。
- ・症状を見て色々なことを疑うことで解決できる場合があることがわかりました。
- ・より良い看護を提供するには努力が必要である。という話があったため、努力し続けることを頑張る。
- ・患者にとってよりよい看護をすること
- ・医療従事者として働く上で患者さんとの関わりを大切にしていきたいと思いました。
- ・自信を持つためにたくさん勉強して知識を持ちたいと思いました。
- ・そうありたいと思う気持ちを忘れずに続けて、努力を怠らず頑張りたいと思いました。
- ・不安を残さず自信が残る様にする
- ・上を目指すためには、個人の努力が必要であるとお話ししていたので、現状に満足せず日々、向上心を持って授業や演習に取り組みたいと思いました。

[2 学年]

- ・患者を裏切らない
- ・感謝される人になるべく日々の勉強をもっと頑張りたいと思った。
- ・患者さんを裏切らないこと
- ・患者と信頼を作っていけるよう行動していく
- ・患者さんと友情関係より信頼関係になること
- ・患者さんの立場に寄り添う
- ・信頼関係を築き、看護をさせていただく
- ・信頼はコミュニケーションによる距離感だけでなく、技術などの実力がなければ築かれないことを学んだので、知識をしっかりと蓄えられるように勉学に励もうと思いました。
- ・信頼関係を気付くために、技術面などを磨いていきたいと思った
- ・いい看護師になれるように頑張りたいです
- ・知識をつけ、看護師になった時不安にならないようにする
- ・当たり前のことを当たり前以上にやる

- ・自分のできることを一つずつ確実に行っていこうと思った。
- ・当たり前のことを当たり前のように日々の生活を心がけていきたい
- ・夢を諦めないこと
- ・いつか自分にいい事が帰ってくると信じて、人に対していいことを心がける
- ・患者さんを裏切らないようにすること。
- ・患者さんとの信頼関係を大切にする
- ・患者に寄り添う看護を心がけようと思った
- ・技術面を大切にする
- ・自信をつけつつ謙虚な気持ちを忘れない
- ・自信を持つこと、気配りができる人になる
- ・患者さん一人一人と付き合っていくこと
- ・勉強は周りを見ずに頑張る
- ・患者さんとの信頼関係を築くこと
- ・先生の考えを参考にしながら自分の医療者としての心持ちを考える
- ・自信をもてるように努力すること。一つ一つのことに真摯に取り組む。
- ・傾聴。当たり前のことを当たり前以上にこなす。
- ・情報から考えられることから正しいアセスメントをできるようにしたい
- ・表の情報だけではなくいろんな面から情報を読み取り、対象に合った援助をしていきたいと心がけようと思った。
- ・当たり前ができるよう努力していこうと思った
- ・集中するために余計なことや今やるべきこと以外の事を省く
- ・自信をつけるための努力を継続すること。自分の得意なことを見つけて伸ばす。
- ・喋らない病気に対して、病気の発する声に耳を傾けてその兆候に気付けるよう、よく対象を看ること。
- ・実習や人間関係を通して、その人の1つの所を見るのではなくその1つのことから色々関連づけて幅広い視野をつける。

[3 学年]

- ・手を合わせる
- ・勉強する時間がないって言い訳するのではなく、やる気を持つ
- ・当たり前を当たり前
- ・寄り添うこと。
- ・患者と真摯に誠実に向き合うこと
- ・当たり前のことが当たり前ができるように凡事徹底を心掛けていきたいと思いました
- ・慢心しないよう努力すること
- ・患者の気持ちを傾聴する
- ・そうありたいと思いながら多くの事に挑戦していきたいと思いました。

- ・患者さんと信頼関係を築くこと
- ・実習頑張ります
- ・頑張ることを決める
- ・見えない情報まで掘り起こす。今日の前で起きている以外の可能性も考えてみる。治療の有無だけでなくコントロール出来ているのか評価する。看護学生だからこそ1人の対象と長い時間を掛けてコミュニケーションを取れるので、残りの実習では上記を意識し、より丁寧に関わっていきたい。
- ・言い訳せずに努力する。
- ・印象に残ったことと同じように、患者が結果に納得できるような関係の構築をしていきたいと思った。
- ・傾聴、コミュニケーション力を磨きたい
- ・気になったことをスルーするのではなく立ち止まって探究すること。目の前のことから逃げず向き合いやり抜くこと。

・先生へ聞いてみたかったこと等あれば

- ・医療人として心がけていること
- ・特にありませんが、最後に質問していた内容について納得することがありました。
- ・医療人になるにあたって看護学生のうちからしておいたほうがいいことはなにか
- ・素晴らしいご講演ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・素晴らしいご講演ありがとうございました
- ・聞けたので満足です。ありがとうございました。
- ・講演ありがとうございました！
- ・貴重な公演をありがとうございました。
- ・治せなかった皮膚病はあるか？
- ・学生に対して講演をする際、伝達に関して意識・工夫している点はございますでしょうか。
- ・診察に行きたくない日があるとおっしゃっていましたが、それでもお仕事を頑張り続けられる理由は何かありますか。
- ・今日の講演を聞いて、なるほどと納得することが多くあり、成功からも失敗からも常に学ぶ姿勢で追求し続け失敗に恐れず自分のスキルを磨き続けていきたいと思いました。